

備北ナカポンドより 第32号
設立10周年記念特集号





2011年9月16日

ごあいさつ

「つなぐ」

一般社団法人 備北地域生活支援協会

理事長 熊原 保

平成21年5月、当時の広島県の担当課長から「障害者就業・生活支援センター（以下「ナカポツ」と言います。）を備北圏域で取り組んでもらえませんか。」との相談がありました。

障害者福祉の仕事を始め、32年になりますが「障害者の就労」というとA型やB型の作業所や地域活動支援センターなど福祉的就労が頭に浮かび、一般企業への就労はなかなかピンとこない面がありました。

しかしよくよく考えてみると仕事をするということには私たちにとってごく当たり前のことであり、障害があるからといってその当たり前から疎外されることがあつてはなりません。

障害者の一般就労を当たり前と思える地域を作っていくためにナカポツの果たす役割は重要と考え、設立準備を進めることとしました。

障害者の就労支援を行うナカポツは、平成14年の障害者雇用促進法の改正によって制度化され、平成21年当時、広島県内にはすでに5か所のナカポツがありましたが、備北圏域と広島西圏域にはない状況でした。

また全国では265か所が設置されていましたが、その運営主体のほとんどは社会福祉法人でした。

備北圏域でも私が理事長を務める優輝福祉会で運営することも考えましたが、多くの関係法人の理解と協力を得てナカポツを運営する方が広がりのある活動ができると考え、平成22年2月17日に6法人11事業所により新たに法制化された一般社団法人で「備北地域生活支援協会」を設立しました。

現在、全国には335か所のナカポツが運営されていますが、一般社団法人による運営は備北ナカポツのみであり、とても貴重な存在だと考えています。

ナカポツの設立当初は、障害者を積極的に雇用しよ

うと考える企業も少なく、知的障害や精神障害の当事者やその支援者も積極的に一般企業で働きたいという気持ちはあまりなかったように思います。

ナカポツ設立年度の登録者（一般就労を希望する障害者）数は52名でしたが、職員の地道な努力により、10年後には388名と7.4倍に増加しました。

また、10年前の一般企業への就業者数は19名でしたが、3年目以降は常に30名以上の障害者が一般企業等へ就職されており、企業の理解も年々深まっているように感じます。

ある書物によると「人は働くことによって4つの喜びを得る」と書いてありました。それは

「お金をもらう喜び」

「人に感謝される喜び」

「人とつながる喜び」

「自分が成長する喜び」

・・・こうした喜びを享受するためにもナカポツはこれからも障害のある人の就職活動を積極的に応援するとともに、仕事を続けるためのあらゆる生活支援に関わっていきたいと考えています。

ナカポツは障害者と企業関係者をつなぐ「架け橋」となるとともに、あらゆる機関や組織をつなぐ「ハブ」としての役割も果たしています。

障害者雇用に関わるすべての人を「つなぐ」とともに、過去10年間の成果をこれからの活動に生かしていく・・・つないでいく役割も私たちにはあります。

今回、10周年の特集号のタイトルを「つなぐ」とした意味をご理解いただき、これからもナカポツに対するご支援とご協力をいただきますようどうかよろしくお願ひします。

目次 CONTENTS

01 ごあいさつ「つなぐ」

理事長 熊原 保

02 ナカポツ座談会

ナカポツの10年を振り返って
設立時職員：谷口 光治さん
中河 博司さん
澤井 由紀さん
司 会：森末 博雄

06 ナカポツ年度別実施事業

写真と共に10年間の年代を追って

10 数字で見るナカポツの歴史

実績を表やグラフで示す10年間の活動

14 私たち輝いています!!

～いきいきと働くナカポツ登録者を紹介します～

18 各種助成金等の紹介

事業主の皆様へ各種助成金を紹介します

20 新型コロナの中での就労支援

事業主のみなさまへ

付 趣意書・事業計画書・定款



「ナカポツ」とは「障害者就業・生活支援センター」の通称名で、名称の中に「・」（ポツ）があることから全国的に「ナカポツ」と呼ばれています。
※関西方面では「就ポツ」と言われています。



題字：熊原 恵洲

ナカポツ 座談会



設立時の事務所

令和2年のコロナ禍の中で、「ナカポツセンター設立10周年」を迎えることになりました。10周年を記念して、設立に関わられた3名の方にお越しいただき、設立当初のお話を聞かせていただきました。

ナカポツセンター10周年を振り返って

司会 本日は、ナカポツセンター設立10周年を記念して、座談会を開催することになりました。よろしく願います。

まず、谷口さんからナカポツセンター設立の経緯についてお話ください。

谷口 平成13年1月に厚生省と労働省が統合されて、厚生労働省ができました。

それまでの障害者雇用は福祉施策としての通勤寮と労働施策としてのあっせん型雇用支援センターがありましたが、福祉と労働の架け橋としてこのナカポツセンターが誕生したと聞いています。

平成14年の障害者雇用促進法の改正により、ナカポツセンターは法制化され、広島県内では最初に尾道市にみどりの町ナカポツが誕生し、その後々と設立されていきましたが、備北圏域にはないということで、平成21年に広島県の障害者支援課から優輝福祉会の熊原理事長にナカポツセンター設立の打診がありました。

社会福祉法人単体で設立することも可能

でしたが、熊原理事長は多くの法人に声をかけて一般社団法人としてナカポツを運営したいという意向があり、三次市と庄原市の法人に加入を働きかけました。

司会 三次市と庄原市の社会福祉法人と福祉関係のNPO法人に声をかけたということですか？

谷口 一応すべての関係法人に声をかける中で賛同いただいた6つの法人により設立することとなりました。一般社団法人の名称は「備北地域生活支援協会」です。

司会 平成22年4月に設立された当初は正式なセンターではなく、プレセンターと聞いています

中河 正式なセンターとなるには、厚生労働省が定める基準を満たす必要があります。設立してすぐに基準を満たすこと



設立時の事務所

はできないため、ナカポツセンターに準ずるプレセンターとして業務を始めたということになります。



事務所内（2011年2月）

企業に入ってもうまくいかないのではないのか」という思いが強かったと思います。

谷口 作業所の職員や障害のある当事者、そして相談支援事業所の職員にも障害者が一般企業で働くという発想には至らなかったと思います。

中河 そのため、作業所では「一般企業には行かずに作業所を利用していた方がよい」という考えが強く、積極的にナカポツに登録するということにはなりませんでした。

司会 当時の障害者就労に対する考え方がだんだん変わっていった理由は何でしょうか？

中河 やはりナカポツで年間3回発行しているセンターだよりを活用してのPR活動や平成23年9月に開催したシンポジウムなどを通じて「自分たちも一般就労ができる」と思えるように少しずつ変わっていったと思います。

司会 ナカポツへの登録者を増やしていく活動と併せて、企業に対する取り組みも必要だったと思いますが、どのような活動をされましたか？

中河 まず、ハローワークの求人に掲載されている企業を訪問しました。最初はヒヤヒヤもので、中には門前払いをされることもありましたが、多くは好意的に対応してもらいました。

また、企業の中にも社会的責任として障害者雇用を進める必要があるとの機運がだんだんと高まっていたと思います。

「障害者を雇用してよかった」といった声も聴かれるようになり、そうした声が次の企業の障害者雇用にも繋がっていったと思います。

澤井 企業へのナカポツの浸透に合わせて、ハローワークからも求職活動をしている障害者の情報なども入って来るようになりました。

谷口 平成24年8月に設立した「障害者就労支援ネットワーク会議」もナカポツ活動の進展に大きな役割を果たしたと思います。この会議は行政、相談支援事業所、ハローワーク、特別支援学校など多くの関係機関に参加してもらい、障害者の就労支援と生活支援に関する色々な情報交換をすることができるようになりました。

司会 ナカポツ設立10年になりますが、設立当初の障害者雇用はどのようなものでしたか？

中河 それまでの障害者雇用のほとんどは身体障害でしたが、ナカポツの登録者は年を追うごとに知的障害や精神障害が増えてきて、就職者数や比率も変化してきました。

谷口 三次は障害者支援センターを通じて情報を収集し、庄原はエリアごとに活動している相談支援事業所からの情報をもとに就労支援をしてきたように思います。

澤井 私が就職した平成23年4月には登録者は52名でしたが、2019年には388名まで増えています。知的障害は庄原特別支援学校の卒業生が毎年登録されているこ



前センター長の谷口光治さん
(2010/4/1～2019/3/31)



障害者自立支援員の澤井由紀さん
(2011/4/1～現在)

ナカポツセンターを理解してもらうために

司会 設立当初にセンターに登録してもらう障害者への取り組みはどのようにされましたか？

中河 最初はナカポツセンターがどのようなのか理解がないため、圏域内の福祉作業所を回って、一般就労ができそうな方を登録してもらうよう取り組みました。

司会 登録はスムーズに進みましたか？

中河 まず、作業所で障害者の支援をしている職員の皆さんの中でも「障害者が一般



現センター長の森末博雄（司会）
（2019/4/1～現在）



障害者自立支援員の中河博司さん
（2010/4/1～2019/3/31）

とにより増加していますが、精神障害は三次病院や市の保健師、ハローワークからの紹介と色々なところからの登録となつていきます。

障害者支援を 実践から学ぶ

司会 皆さんのナカポツへの就職のきっかけはどのようなものですか？

谷口 私はその当時は優輝福祉会の相談支援事業所に勤めていました。理事長であった熊原さんから「ナカポツをすることになった」と言われ、そのままセンター長になるよう話がありました。最初は断ったのですが、人材がいらないことやナカポツ設立の準備段階から関わってきていた経緯もあり、成り行きでセンター長になったということです。

中河 私はハローワークの求人票でナカポツを知りました。長く一般企業で働いていて、障害者の就労支援ということについてはまったくの素人で、就職当初は大変戸惑いでしたが、企業訪問や障害者との関りの中で、少しずつ慣れてきたように思います。**澤井** 知人を通じてナカポツを知り、最初は事務ということで就職しましたが、入ってみると就労支援や生活支援など事務以外にも多くの業務があることを知りました。私も中河さんと同様に障害についてはまったくの素人で、必死で勉強しました。実践

から学ぶという点では良き先輩に恵まれたことが良かったと思っています。**司会** 仕事を続ける中で困ったことなどありますか？

中河 市内で30社の企業を受けてすべて不採用になった人がナカポツに相談に来られました。登録をしてもらい求職活動を支援しましたが、応募する企業はすでに不採用となっておられ、受ける企業がないような状況でした。

最終的には就職にこぎつきましたが、企業からは「ナカポツが支援を続けてくれるなら採用してもよい」と言われ、責任を痛感したことがあります。

谷口 障害者がハローワークに一人で行ってもなかなか就職できない状況があり、その面ではナカポツが支援するようになって企業も安心して採用することに繋がっていったケースもありました。

澤井 精神障害や発達障害の人が増えてくるにしたがって、対応が複雑になってきたように思います。例えば、一人で三次市に引越してこられた方などの場合、すぐに就職に繋げることが難しいケースもありました。特に生活支援ではナカポツがどこまですればよいのか悩むことも多くありました。

司会 逆に仕事を続けてきてよかった点は何ですか？

澤井 この仕事は色々なところとつながる点がおもしろいと思います。当事者はもちろんその家族や企業、学校やハローワーク、

なった時、円満に退職に導くことにより、次の新たなステップに円滑に進めることとなります。継続させることがすべてではないことも頭の隅に入れておいてほしいと思います。

澤井 精神障害や発達障害の人は面談だけでは十分にわからない面があります。私自身がその人のことを分からないままに就業支援することは大変不安があるので、その人を知るための具体的な取り組みをしっかりと考えていきたいと思っています。

司会 ありがとうございます。これからナカポツ事業にご支援とご協力をいただくことをお願いして座談会を終わりたいと思います。



職場定着交流会でのWRAP（2018年10月9日）



庄原市健康福祉まつりでの一コマ（2016年5月15日）

市役所や相談支援事業所など色々な方とのつながりによってできる仕事だと思います。

中河 障害に関する理解を深めることができたのは良かったと思います。また、私は一般企業に勤めていたため、企業の求人内容を見ればその企業での仕事内容がある程度理解できます。そのため障害者と企業とのマッチングに私の経験を活かすことができました。

谷口 企業（特に製造業）について知っているのは中河さんだけでした。中河さんがいなかったら企業との関りもスムーズには築けなかったと思います。

また、ナカポツを一から立ち上げるためには経理や庶務などを担う人材が必要でし

「ナカポツの思い出」

元職員 箱田 公人



私は広島県の職員を退職後、故郷である庄原市西城町に帰ってきました。

帰って間もなく、

県庁時代に大変お世話になっていた優輝福祉会の熊原理事長に挨拶に行ったところ「ナカポツを県北でもやりたいので力を貸してほしい」とのお話をいただきました。

私も県の職員時代は長く福祉畑に籍を置いていたこともあり、力になれることがあればとの思いで協力することとなりました。

平成22年4月に庄原市に開設された当時の事務所は倉庫の一部を仕切ったもので、暖房もなくとても寒かったことが思い出されます。

その後、三次市生涯学習センターから現在の三次市福祉保健センターの一角に事務所が移転され、良い環境の中で皆さんが働いておられることをつらやましくも思います。これからも色々な機関と連携され、障害者の就職支援や定着支援、そして受け入れ企業の開拓などに頑張っていたきたいと思っています。

そして、備北地域で生活されている障害者もとり、すべての市民にとって住みよい地域になることを望みます。

ナカポツ 年度別 実施事業

平成22年6月に障害者の社会生活をサポートする機関として、ナカポツセンターが活動を始めました。
三次・庄原両市をエリアとして、公的機関と連携し、障害者と企業との橋渡しをして10年の節目を迎えました。
その10年間の事業を振り返ってみます。

| 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|---|--|--|-------------------------|---|--|---|--|
| H22・4 | H23・4 H23・5 H22・6 H22・7 H22・9 | H24・4 H23・5 H24・7 H24・8 H23・12 | H26・1・2・3 | H26・4・11／H27・1・3 | H27・4 H27・5 H27・6 H27・9 | H28・4 H28・7 H28・9 H28・6 | H29・5 H29・6 H29・1 H28・10 |
| 障害者就業・生活支援センターのプレセンターとして「備北圏域障害者総合就業・生活支援センター」を庄原市「美湯ハイツ」に設立 センターの開所式を三次グラントホテルで開催 広報誌「備北プレセンターだより」の発行を始める 障害者の就業及び生活支援体制の整備に向けた 「備北圏域障害者就業・生活支援連絡会」を設置 センターのホームページを立ち上げ、情報提供を開始 | センターの三次事務所を三次市生涯学習センター2階に開設 センターとして初めて、ジョブコーチを活用した支援を実施 シンポジウム開催 テーマ「働くよろこびをみつけれられるまち」 講師…NPO法人ウイング・かべ 佐々木哲二郎さん 正式に「障害者就業・生活支援センター」として指定を受け、活動を開始 | 広島県が進める「あいサポート運動」の企業に認定 障害者の就労支援と生活支援を総合的に推進する 「障害者就労支援ネットワーク会議」を設置 研修会開催 テーマ「社会福祉施設における障害者雇用の課題と取組み」 講師…シルトピア油木事務長 高原淳尚さん 視察研修会開催「社会福祉法人はなさきむら」(兵庫県)を視察し、利用者を法人が職員として採用するための訓練や学習の場について研修 研修会開催 テーマ「精神障害者の地域生活支援について」 講師…三次病院地域生活支援部長 大坪将志さん | 地域包括ケアシステム推進ワーキングチームへ参加 | 地域包括ケアシステム推進ワーキングチームへ参加 在職者交流会開催(年間2回開催) 研修会開催 テーマ「障害を理由とする差別を解消する取組の中で」 講師…広島市基幹相談支援センター 田中洋子さん 研修会開催 テーマ「障害者虐待防止法と障害者差別解消法について」 | センター事務所を三次市生涯学習センターから三次市福祉保健センターに移転 在職者交流会開催(年間3回開催) 当事者のつどい開催 テーマ「仕事をするために必要なこと」 研修会開催 テーマ「生活を支えるく働くことを考える」 講演「障害者雇用と人権」 講師…広島大学大学院教授 横藤田誠さん 座談会「障害者雇用に取り組んできて」 鮮コーポレーション(株) 本部部长 小森智恵子さん 庄原日赤病院 総務課長 宮本泰幸さん 当事者のつどい開催 テーマ「お金のトラブルについて」 | 備北圏域における職場定着の効果的な推進のために、企業、労働、福祉、教育連携して職場環境の整備や共同事業の実施等に取り組むための協働機構として「備北圏域障害者就業・職場定着支援推進会議」を設置 当事者のつどい開催 テーマ「就職・復職するために必要なこと」 在職者交流会開催(年間4回開催) 講演会開催 演題「働きながらいきいきと生きる」 講師…就労支援センターFLAT 大江祥博さん 視察研修会開催 視察先…(株)イー・アール・ジャパン(福山市箕沖町) (株)ハートコープおのみちエコセンター(尾道市美ノ郷町) 就労についての座談会開催 | 在職者交流会開催(年間8回開催) 視察研修会開催 視察先…無印良品イオンモール広島府中店(安芸郡府中町) 県内障害者就業・生活支援センター連絡会を三次市で開催 |



イー・アール・ジャパン(平成28年10月20日)



当事者のつどい(平成28年6月25日)



職員写真(平成26年9月)



ナカポツだより第1号



平成22年6月27日備北圏域開所(中国新聞)

平成30年度

| | |
|--------|--|
| H29・9 | 視察研修会開催 視察先…大黒天物産株式会社 ラ・ムー庄原店 就労定着支援座談会開催 基調講演「ジョブコーチと連携した就労支援」 講師…広島障害者職業センター シンポジウムテーマ「入り口から丁寧な」 新見弘明さん 視察研修会開催（島根県・鳥取県） 視察先…JR西日本米子メンテック出張事業所（島根県出雲市） 医療法人「養和会」（鳥取県米子市） 視察研修会開催 視察先…岡山県総社市役所 |
| H29・9 | 三次市内の福祉サービス事業所見学会開催 在職者交流会開催（年間7回開催） シンポジウム開催 基調講演「私のリカバリーストーリー」 講師…WRAPファシリテーター 増川ねてるさん シンポジウムテーマ「リカバリーと働くこと」 視察研修会開催 視察先…ダイソーウイング（東広島市） 視察研修会開催 視察先…山口県宇部市役所「就労ワークステーション」 |
| H30・5 | |
| H30・5 | |
| H30・6 | |
| H30・8 | |
| H30・10 | |
| H31・4 | 研修会開催 テーマ「発達障害者の生活のしづらさを理解しよう」地域でふつうに暮らせるために」 講師…子鹿医療療育センター公認臨床心理士 古川卓さん 在職者交流会開催（年間8回開催） 障害者就労セミナー開催（共催事業） 講演「みんなが働く良い会社を目指して」みんなで働く・みんなで笑う」 講師…メタルワーク福山 代表取締役 大植栄さん パネルディスカッション テーマ「県北の障害者雇用の現状について」 視察見学会開催 視察先…青山商事株式会社井原商品センター（岡山県井原市） 発達障害研修会開催（共催事業） 基調講演「福祉は地域づくり・社会づくり」 講師…社会福祉法人ひとは福祉会理事長 寺尾文尚さん シンポジウムテーマ「発達障害児・者がこの地域で暮らすために」 「ライフステージに合わせた支援とつながり」 |
| R元・8 | |
| R元・7 | |
| R元・5 | |
| R元・7 | |

令和元年度

| | |
|-------|---|
| R元・11 | 企業等交流会開催 障害者雇用の状況や障害者とともに働いているうえでの悩みなどを出し合うワークショップを開催 視察見学会開催 視察先…広島障害者職業能力開発校（広島市） JR西日本あいウィル（広島市） 就活支援交流会開催 仕事になかなか就けない方と仕事に就いている方の交流会をワークショップ形式で開催 企業等交流会開催 事前アンケートで提出された障害者を雇用するうえでの困りごとや心配ごとなどについて意見交換 |
| R元・12 | |
| R2・2 | |
| R2・6 | 就活支援交流会開催 演題「私の就職活動」私の体験をお話します」 講師…富井英三さん 研修会開催 テーマ「発達障害と就労支援」 講師…広島県発達障害者支援センター センター長 西村浩二さん 在職者交流会開催（年間6回開催） 発達障害基礎講座開催（共催事業） 基調講演「発達障害とは何か」相談診療を通じた経験から」 講師…元桜クリニック院長 杉山信作さん 報告「三次市、庄原市、安芸高田市の現状と備北の課題」 報告者…発達障害専門家会議 in びほく 事務局 瀧川由香さん 企業等研修会開催 事業説明①「障害者雇用促進の制度等について」 講師…ハローワーク三次 統括職業指導官 太田博文さん 事業説明②「障害者雇用を進めるために」 講師…広島労働局職業対策課 担当官 加藤一也さん 講演「エフピコにおける障がいのある人材の雇用」 「一人ひとりが輝いて、続ける力は未来へと」 講師…㈱エフピコ 常務取締役 西村公子さん 就活支援交流会開催 演題「統合失調症のわたしが働き始めて気づいたこと・感じたこと」 講師…世良幸洋さん 在職者と求職者に分かれてのグループワーク 企業等交流会開催 テーマ「障害者雇用に取り組んで」 発表者…社会福祉法人水明会…副主任事務員 黒田俊浩さん 株式会社緑の村…統括本部長…井上 啓さん 知的障害と精神障害に分かれてのグループワーク |
| R2・6 | |
| R2・7 | |
| R2・9 | |
| R2・9 | |
| R2・10 | |
| R2・11 | |

令和2年度

| | |
|-------|--|
| R2・6 | |
| R2・7 | |
| R2・9 | |
| R2・9 | |
| R2・10 | |
| R2・11 | |



企業等交流会(令和2年11月19日)



在職者交流会(令和2年9月12日)



職場定着支援会議(令和2年6月29日)



就活支援交流会(令和2年6月27日)

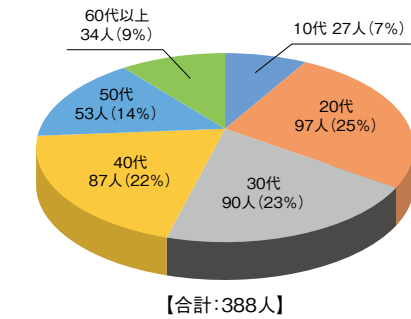


シンポジウム(平成29年9月2日)



講演会(平成28年9月12日)

④ 2019年度年代別登録者と割合



- ・年代別登録者数は20代が最も多く、20～40代で全体の70%を占めます。
- ・10代の登録者数のほとんどは、広島県内の特別支援学校の卒業生が占めています。

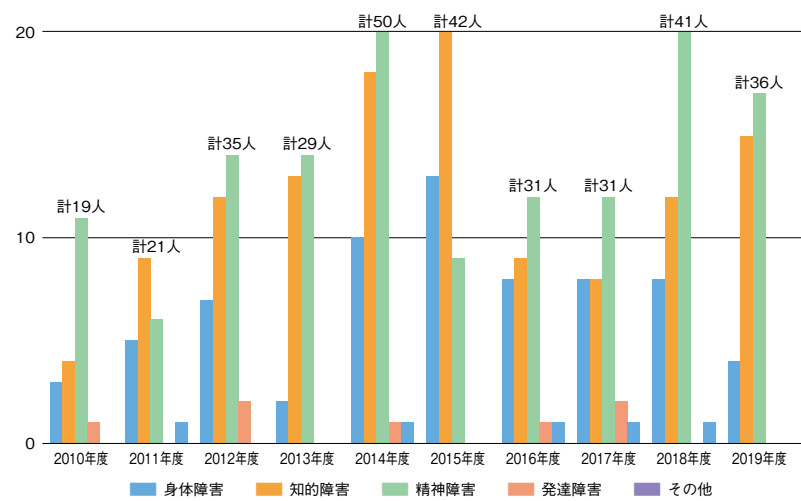
コメント

年代別登録者数については、少子高齢化の進展により、50歳代や60歳代の登録者が増加傾向にあります。

2 障害者の就業状況

① 障害別就職者の推移

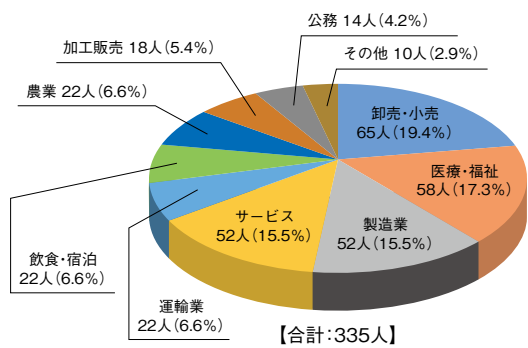
単位：人



コメント

ナカポツが設立されて3年目以降は概ね30人を超える就職者数となっています。精神障害者が就業する割合が高い傾向がありますが、離職率も高い傾向があり、就職後の継続した就業支援や生活支援が課題となっています。

② 10年間の業種別就職状況



- ・業種別就職状況では卸売・小売が最も多く19.4%を占めています。卸売・小売での主な仕事は品出し・商品陳列が多く、レジや接客に従事するよりも、決められたことを規則的にこなしていく作業に従事される人が多い傾向があります。
- ・卸売・小売、医療・福祉、製造業、サービスの4業種で全体の67.7%を占めています。
- ・サービス業の内訳は、クリーニング・清掃・廃棄物処理・郵便局などがあります。
- ・医療・福祉関係では、機器洗浄、清掃、調理補助、配膳の仕事に従事される方が多くいます。
- その他の内訳：建設業 1.8%、林業 0.6%、金融・保険 0.3%、教育・学習 0.3%

コメント

就職先は多岐にわたっています。比較的単純な作業に従事している人が多い傾向がありますが、長年の経験によって技術を身に付け、職場にない存在となっている方もおられます。

数字

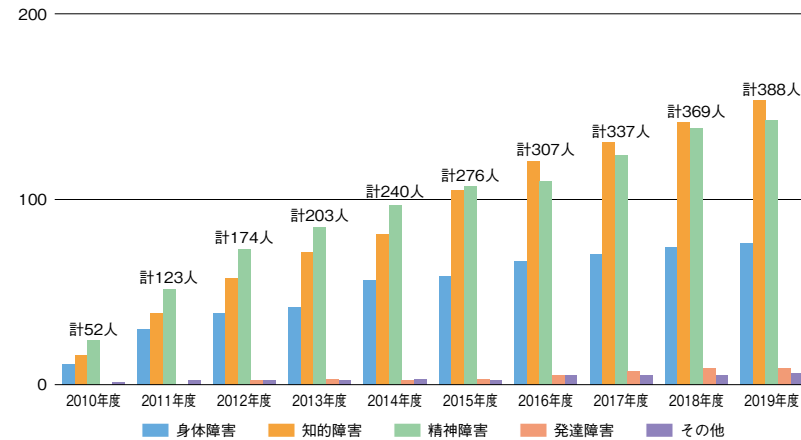
で見る ナカポツの 歴史

ナカポツの10年間の実績を数字とグラフでまとめました。
※掲載している表の中には、年度による集計方法等が変更されたため、正確な比較検討が十分できないものもあります。あらかじめご了承ください。

1 登録者の状況

① 登録者数の推移

単位：人

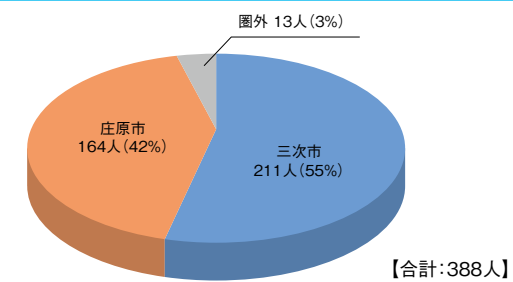


- ・登録者数は2010年度（52人）から2019年度（388人）と7.4倍に増加しています。
- ・ナカポツ開設以来10年間で身体障害者6.9倍、知的障害者9.6倍、精神障害者5.9倍に増加しています。
- ・知的障害者の増加率が高いのは、県立庄原特別支援学校の卒業生が毎年10名以上登録するためと考えられます。
- その他の内訳：難病、高次脳機能障害

コメント

ナカポツの登録者は身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳を持っておられる方、または精神疾患や発達障害、難病等により就業に何らかの支援が必要な方であることが医師の意見書等で証明できる方です。

② 2019年度地域別登録者と割合

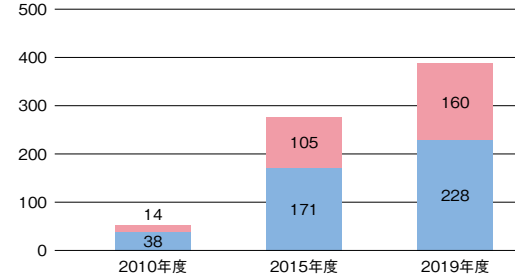


コメント

三次市と庄原市の登録者の割合は概ねそれぞれの市の人口比率と一致しています。圏外は安芸高田市や世羅町等の方で三次市や庄原市に就業されている方となっています。

③ 男女別登録者数

単位：人



- ・男女別登録者数は、2010年度と2019年度の比較で男性6.0倍、女性11倍の伸びとなっています。
- ・男女別登録者数の比率は、2010年度男性7：女性3から2019年度男性6：女性4に推移しています。
- ・就業を希望する女性が増加していると考えられます。

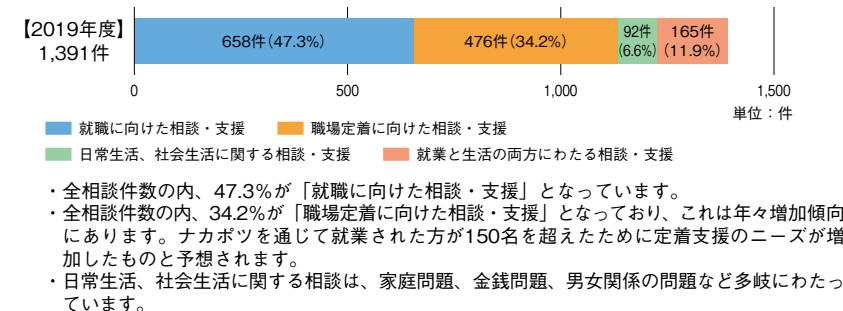
コメント

年々、女性の登録者の割合が増加していることは、女性の社会参加が徐々に進んでいることに要因があると思われます。

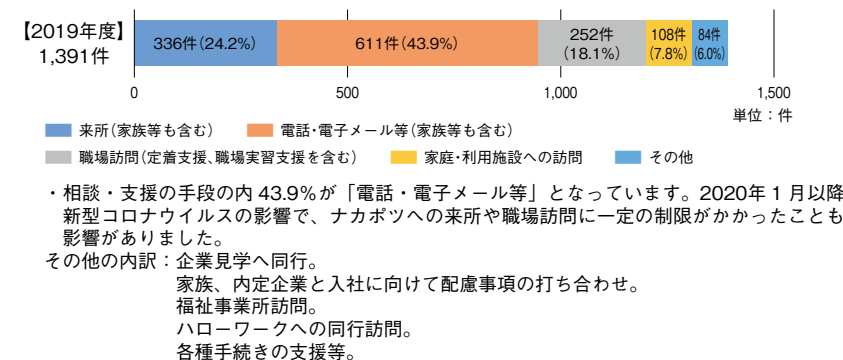
4 相談支援の状況

① 障害者に対する相談・支援

■ 内容別



■ 手段別



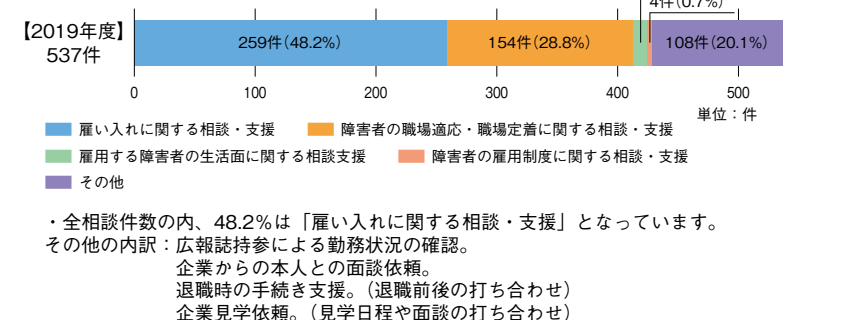
コメント

相談支援件数は年々増加しており、近年は職場定着に向けた支援の増加が多くみられます。また、就業に関わる相談だけでなく、家庭での悩みや交友関係、金銭のトラブルなど生活面での相談も年々多くなっています。

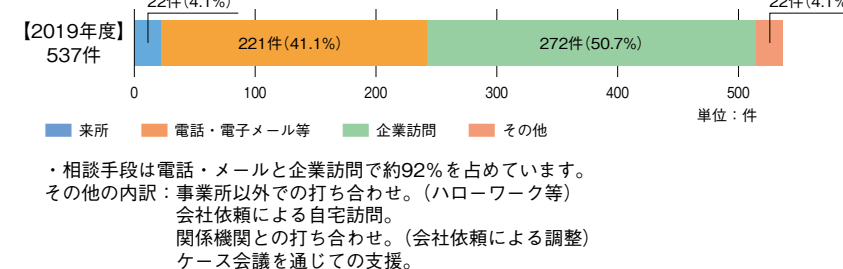
相談の手段も、令和2年度からは新型コロナの影響により、オンライン（ZOOM）による面接も開始し、多様な手段による相談支援を行うようになっていきます。

② 企業等に対する相談・支援

■ 内容別



■ 手段別

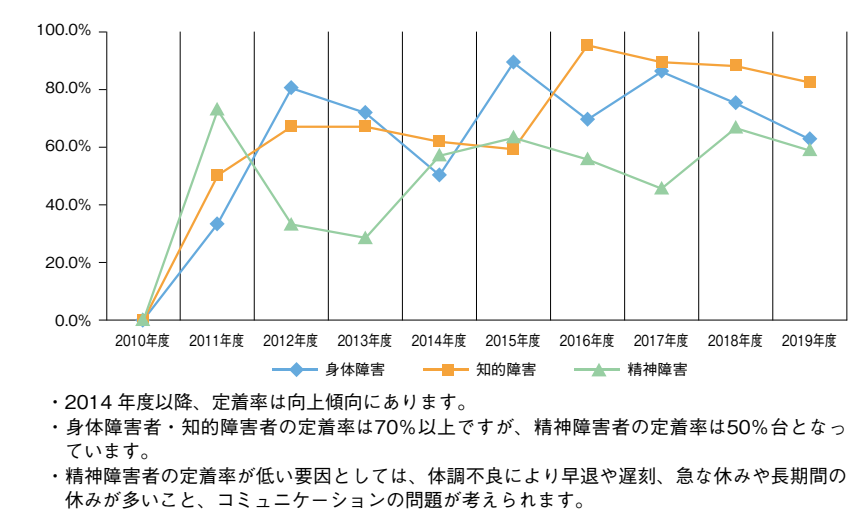


コメント

企業等に対する相談・支援件数は年々増加しています。ナカボツを通じて就職される方が毎年30人以上となっており、それに伴い「職場適応・職場定着に関する相談」が増えています。

3 定着率と離職の状況

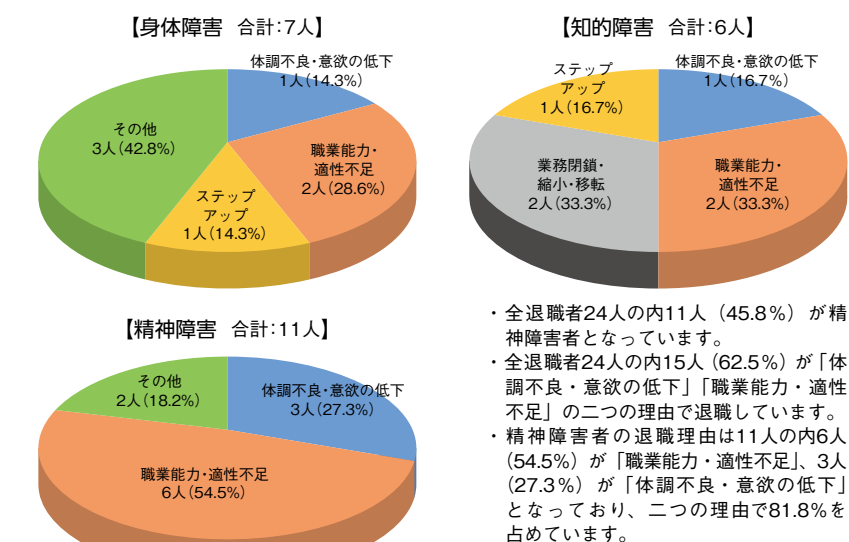
① 就職後、1年経過後の定着率



コメント

就職して1年後に同じ企業で働いている方の割合を示しています。精神障害者の場合、人間関係や自身の体調不良等により継続した就業が難しい傾向にあります。また、これまで職を転々としてきた人の離職率は高くなっています。

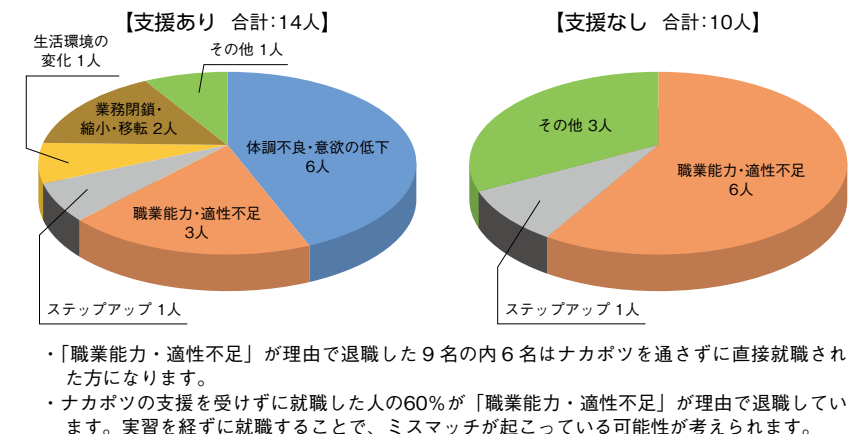
② 離職理由（2020年4月～12月までに退職した人）



コメント

退職する理由は様々ですが、自己都合による退職がほとんどを占めています。また、自己都合では職業不適應や職場での人間関係で体調不良となり、離職するケースが多くあります。

■ 退職者の内、就職時にナカボツ支援の有無



2020年3月末現在、在職中の方は160名で、そのうち133名（83.1%）がナカボツ支援で就職された方、27名（16.9%）が支援なしで就職された方となります。

160名の内、24名（15%）が2020年4月から12月末までに退職されています。

24名の内14名がナカボツ支援の方、10名がナカボツ支援なしの方となり、支援した方の退職率は10.5%、支援なしの方の退職率は30.7%となっています。

ナカボツが支援して就職された方の退職率は低くなっており、ナカボツの役割は大きいと言えます。



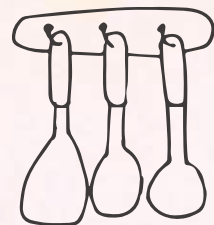
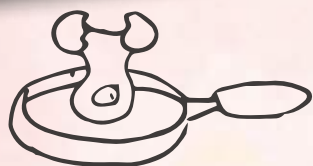
寺岡有機農場で農業をしている
渡辺太陽さん(勤続1年目)



西城市民病院ディサービス部門で送迎の
仕事中の重光邦彦さん(勤続9年目)



湧永製薬広島事業所製造一課で働く
林智恵さん(勤続1年目)



美味しい料理を
作ります!!

ゆうしゃいん三次で調理補助の仕事中的
野白千鶴子さん(勤続10年目)



マクドナルド183三次店で調理の
仕事中の池上健人さん(勤続2年目)



三次衛生工業社で分別の仕事中的
高下宙さん(勤続1年目)



JMS三次工場の資材部門で働く
小河内一輝さん(勤続3年目)



フレスタ東城店で品出し・陳列の仕事中的
伊ノ木育実さん(勤続10年目)



きれいに
焼き上げます!!

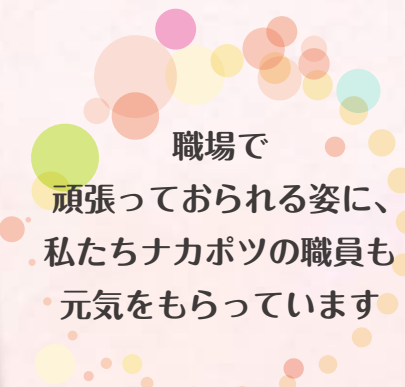
ラ・ムー庄原店でたこ焼きの製造販売を
する黒田由香里さん(勤続2年目)



ヤマト運輸三次主管支店で仕分けの仕事
をしている倉林友里さん(勤続1年目)



フレスタ庄原店で商品陳列を担当する
岩崎主晃さん(勤続2年目)



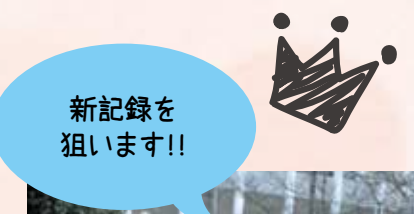
職場で
頑張っておられる姿に、
私たちナカポツの職員も
元気をもらっています



フレスタ東城店で品出しの仕事中的
横山幸裕さん(勤続8年目)



三次衛生工業社で洗浄の仕事中的
前横山優さん(勤続4年目)



新記録を
狙います!!



ドバイ2019世界パラ陸上選手権大会
やり投げ日本代表の白砂匠庸さん

私たち 輝 いています!!

ナカポツに登録されている就業中の皆さんの写真を掲載します。(順不同)



グリーンカクエイでネギの計量作業中の
西尾和男さん(勤続1年目)



JMS三次工場の庶務部門で働く
土河敦さん(勤続8年目)



丁寧に
袋詰めします!!

フレスタ三次店で青果の袋詰めを担当する
久保田圭子さん(勤続2年目)



マクドナルド183三次店で調理の
仕事中的Tさん(勤続3年目)



庄原特別支援学校で学校事務アシスタントと
して働く高橋勇希さん(勤続2年目)



カイハラ産業(株)吉舎工場の
加工部で働く石井千加さん(勤続1年目)



フレスタ三次店でパンの成形を担当する
中村浩之さん(勤続5年目)



佐々部材木店梱包部で働く
西村海渡さん(勤続3年目)



かんぼの郷庄原で
ベッドメイキング中の
勢村宜紀さん(勤続1年目)



舩元木工でベッドの組み立て作業を行う
廣澤拓也さん(勤続3年目)



東城まちなか交流施設えびすで事務職員として
働く小川里菜さん(勤続1年目)



広島県酪農業協同組合で一般事務員として
働く上口慶二さん(勤続1年目)



シナジーテクノで基盤電気検査中の
福田修士さん(勤続4年目)



庄原特別支援学校で学校事務アシスタント
として働く土屋芳弘さん(勤続2年目)

ちゃんと
分別されているか
見えています!!



フレスタ庄原店でリサイクルトレーの仕訳を
担当する平原佳和さん(勤続13年目)



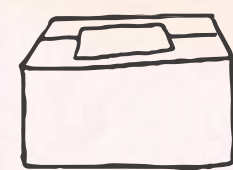
庄原同仁病院の管理部門で働く
井上智春さん(勤続6年目)



庄原実業高校で学校事務アシスタントとして
働く後藤秀和さん(勤続2年目)



ヤマト運輸三次主管支店で仕分けの仕事
をしている熊澤有馬さん(勤続7年目)



長岡鉄工建設で溶接の仕事中的
宇山知弥さん(勤続1年目)



西田鮮魚店で調理中の西浦龍矢さん
(勤続2年目)



各種助成金等の紹介

障害者を雇用または雇用を検討している企業の事業主に対して、次のような助成金があります。

1 特定求職者雇用開発助成金

障害者などの就職困難者をハローワーク等の紹介により雇用保険の一般被保険者として雇い入れる場合に助成金が支給されます。

助成金額は週30時間以上の勤務で中小企業の場合、2年間120万円（重度の障害者または精神障害者の場合は3年間240万円）です。また短時間労働（週20時間以上30時間未満）の場合は2年間80万円です。

■ お問い合わせ先／お近くのハローワーク

2 障害者トライアル雇用助成金

障害者を原則3か月間試用雇用する場合に対象者一人当たり月額最大4万円（精神障害者の場合月額最大8万円）が3か月間支給されます。

■ お問い合わせ先／お近くのハローワーク

3 短時間勤務の障害者雇用に関する特例給付金

週10時間〜20時間未満で働く障害者を雇用している場合に月額5000円または7000円（従業員数による）が支給されます。

■ お問い合わせ先／独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構広島支部

4 障害者雇用納付金制度に基づく各種助成金

事業主が障害者の雇用にあたって、施設・設備の整備や適切な雇用管理を図るための特別な措置を行う場合に、その費用の一部を助成するものです。

■ お問い合わせ先／独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構広島支部

(1) 障害者作業施設設置等助成金

作業施設や付帯施設、作業設備の新築、増築、改築等の費用が助成されます（賃借の場合も助成があります）。

事例

車いす使用の新規採用者のために障害者用トイレを新たに設置



(2) 障害者福祉施設設置等助成金

雇用している障害者の福祉増進を図るための保健施設、給食施設、教養文化施設等の設置・整備に係る費用が助成されます。

事例

車いすで働く従業員が食堂を利用しやすくするためにスロープの設置や車いすでも利用できるドアや洗面台に改修



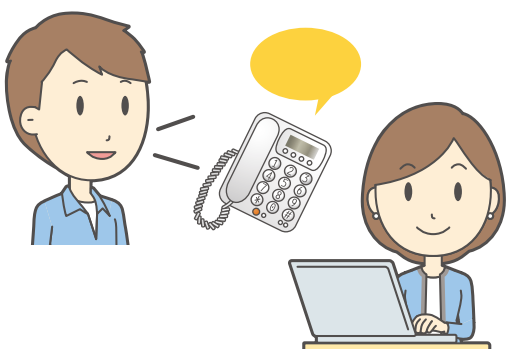
(3) 障害者介助等助成金

障害者の障害特性に応じた適切な雇用管理のために必要な介助者の配置等の特別な措置を行う場合に助成され、次の4種類があります。

I 職場介助者を配置または委嘱することを助成する「職場介助者の配置または委嘱助成金」

事例

両上下肢に障害のある従業員のために、受話器の上げ下ろしやキーボードの操作の補助、食事の介助等を行う職場介助者を配置



(4) 重度障害者等通勤対策助成金

合理的配慮に係る相談等に応じる者の増配置または委嘱することを助成する「障害者相談窓口担当者の配置助成金」

障害者の障害特性に応じて通勤を容易にするために講じられる措置に対する費用が助成され、次のような種類があります。

I 障害者を入居させるための住宅を賃借することを助成する「重度障害者等用住宅の賃借助成金」

II 障害者5人以上が入居する住宅に指導員を配置することを助成する「指導員の配置助成金」

III 障害者に住宅手当を支払うことを助成する「住宅手当の支払助成金」

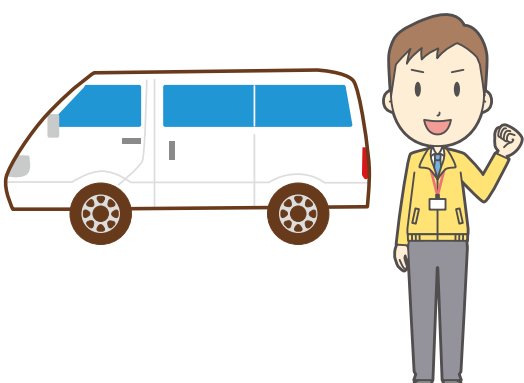
事例

一人での通勤ができないため、助成金を活用して会社の近くにアパートを借りるため、通常の社員の住宅手当にプラスした手当を支給する仕組みを整備



IV 障害者5人以上の通勤のためのバスを購入することを助成する「通勤用バスの購入助成金」

V 障害者5人以上の通勤のためのバスの運転手を委嘱することを助成する「通勤用バス運転従事者の委嘱助成金」



VI 通勤援助者を委嘱することを助成する「通勤援助者の委嘱助成金」

VII 自動車通勤を行う障害者のための駐車場を賃借することを助成する「駐車場の賃借助成金」

VIII 自動車通勤を行う障害者のための自動車を購入することを助成する「通勤用自動車の購入助成金」

(5) 重度障害者多数雇用事業所施設設置等助成金

対象障害者を多数継続して雇用し、これらの障害者が就労するために必要な事業施設等の整備等にかかる費用が助成されます。



新型コロナの中での就労支援

備北障害者就業・生活支援センター長 森末 博雄

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、日常生活や社会生活に大きな制約を受ける1年となりました。（まだ終息していないのほとても残念ですが・・・。）

企業においても特に製造業やサービス業において大きな打撃を受け、経済損失は過去に例を見ない数字が示されています。備北圏域においても自動車関連産業や飲食業などで内定の取り消しや労働時間の短縮などにより、障害者の雇用環境も厳しい事例が見受けられました。

企業訪問も感染拡大防止のため、4月から6月までほとんどできない状況が続き、登録者との面談も電話によるものがほとんどで、通常の活動ができない状況が続きました。

こうした中、新型コロナの影響により、全国では1月6日時点で8万人を超える解雇者が出たとの報道がありました。幸いにも備北圏域ではナカポツ登録者の解雇はありませんでした。

また、2月16日時点での新型コロナ関連の倒産が全国では1,000社以上ありましたが、備北圏域では発生していません。

当センターでは令和2年度も企業に対する支援としての研修会や交流会の開催、ピアサポート活動としての就労支援交流会の開催、在職者を対象とした交流会、視察研修会などを計画していました。残念ながら視察研修会はバスでの3密を危惧し

て中止しましたが、それ以外は当初の計画どおりすべての事業を実施しました。様々な関係機関では事業を中止される事例が多く見られましたが、感染の防止を徹底する中で、無事に事業を終えることができました。

今回の新型コロナの影響によって多くの活動が制約を受けたことは間違いありませんが、ともすれば新型コロナを理由として必要以上に制約をかけているのではないかと思われる事例も多くありました。

昨年の8月にオンラインで開催された「障害者就労支援フォーラム」では「ひるむな、私たち。ZIPPON進化論」をテーマとして、新型コロナで大変な状況にある中でもしたたかに「コロナピンチ」を「コロナチャンス」に変える取り組みが多く報告されていました。そこでは「何でもかんでもコロナのせいにしては前に進めない」という共通したコンセプトがあったように思います。

今回の新型コロナの感染拡大は私たちの日常生活や社会生活に多くの影響を与え、生活スタイルや就業スタイルも大きく変化しました。そしてこうした変化はコロナが終息した後もそのまま新しいスタイルとして残るものも多くあると思います。「災い転じて福となす」ために新型コロナは多くの知恵を私たちに与えてくれたのかもしれない。

一般社団法人 備北地域生活支援協会

一般社団法人が運営するナカポツは、全国でただひとつです。

18の事業者がコラボして手を組み運営しています。

事業主のみなさまへ

**令和3年3月1日から
障害者の法定雇用率が引き上げられました**

障害に関係なく、希望や能力に応じて、誰もが職業を通じた社会参加のできる「共生社会」実現の理念の下、すべての事業主には、法定雇用率以上の割合で障害者を雇用する義務があります（障害者雇用率制度）。この法定雇用率が、令和3年3月1日から右記のように変わりました。

| 事業主区分 | 法定雇用率 | |
|-------------|--------|-------------|
| | 現行 | 令和3年3月1日以降 |
| 民間企業 | 2.2% ⇒ | 2.3% |
| 国、地方公共団体等 | 2.5% ⇒ | 2.6% |
| 都道府県等の教育委員会 | 2.4% ⇒ | 2.5% |

平成22年度事業計画書

一般社団法人 備北地域生活支援協会

当協会の守るべき点については次のとおりです。

地域生活の五視点

- 安全 いのちは守られているか
- 安心 支えあうシステムはあるか
- 安定 暮らしに必要なお金が稼げるか
- 安楽 楽しみや親睦の機会と場はあるか
- 誇り 自分や地域に誇りをもっているか

地域ぐるみの支えあいをもットーとします。

I 就業・生活支援センター

1 就業・生活支援センター事業実施の方針

一般企業への就職を希望する障害者、職場不適應により離職した障害者や離職の可能性のある在職中の障害者に対し、就業・日常生活・社会生活において障害者が自立して生活できるように支援します。

2 事業内容

- 相談及び指導・・・障害者の相談に応じ、必要に応じて指導・助言を行う。
- 助言・・・事業主に対して、助言を行う。
- 幹旋・・・障害者に対して、事業主等により行われる職業準備訓練や職場実習の幹旋を行う。
- 連携・・・公共職業安定所、障害者職業センター、障害者職業能力開発校、社会福祉施設、医療施設、特別支援学校その他当事者団体等の関係機関との連絡会議を開催し、連携を図る。

一般社団法人 備北地域生活支援協会(仮称)の設立趣意書

広島県備北障害保健福祉圏域においては、さまざまな生活課題・福祉課題・就業課題があり、公的サービスが充実しても解決できないニーズが多く出現しています。

こうした状況に対応して、市民同士のふれあい・助けあい・支えあいを大切にした、一人ひとりの幸せ創りとして、共生社会のための地域生活支援サービスが重要です。基本的には就労支援、生活支援、地域支援です。

しかし、これらの「地域生活支援」への努力はそれぞれの担い手や組織が各々理念実践されているわけです。サービスの受け手の期待は総合、統合、連携された組織や協働を通したサービスの充実や発展です。

例えば、「障害者総合就業・生活支援センター事業」で申しますと、障害者が地域で普通に暮らすことにあたり、会社で働いて生活費を稼ぎたいという思いは、個人差はあるものの多くの方が抱いている欲求です。これは、単に個人の利益追求というばかりではなく、人材不足を補うという社会貢献という視点からも大きな意義があります。

しかしながら、障害者が働きたいと思っても、一般企業へのアプローチの仕方がわからないとか、個人的にアプローチしても採用に結びつかないなど、障害者にとって雇用情勢は厳しい状況となっています。当支援センター事業としては、障害者の雇用を一人でも多く企業へ就職できるように、一般企業と障害者のかけ橋となるべく、企業訪問・企業実習・職業指導・雇用後のアフターケアなど企業との連携を中心に活動を行います。

また、経済状況が厳しい中、障害をもたない人も就職が厳しい状況となっており、そのような方への支援も重要な課題であると言えます。

このような認識に対して期待される方法として、別記の案で一般社団法人を設立して民意に応えたいと考えています。どうか趣旨にご賛同いただきたく、ここにお願い申し上げます。

平成22年 2月 1日
一般社団法人 備北地域生活支援協会
設立代表者 熊 原 保

一般社団法人 備北地域生活支援協会 定款

第1章 総則

(名称)

第1条 当社は、一般社団法人備北地域生活支援協会と称する。

(主たる事務所)

第2条 当社は、主たる事務所を広島県庄原市に置く。

2 当社は、理事会の議決により、従たる事務所を必要地に置くことができる。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 当社は、障害の有無にかかわらず、全ての人に対して、自立した生活を地域社会において営むことができるよう就労支援・生活支援・地域支援を行い、個人の尊厳ある福祉の増進に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 当社は、第3条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 障害者、生活困窮者の支援
- (2) 高齢者福祉の増進
- (3) 児童、青年の健全育成
- (4) 勤労意欲のある者への就労支援
- (5) 文化、芸術、教育の振興
- (6) 自然環境保護及び地域社会の発展
- (7) その他、公益に関する事業として政令で定めるもの
- (8) 障害者就業・生活支援センター事業
- (9) 前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業

第3章 社員及び会員

(法人の構成員)

第5条 当社に次の会員を置き、正会員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「法人法」とする。）上の社員とする。

- (1) 正会員 当社の目的に賛同して入会した団体及び個人
- (2) 賛助会員 当社の事業を賛助するために入会した個人及び団体（入会）
- 第6条 当社の目的に賛同し、会員として入会しようとするものは、理事会において別に定めるところにより、入会の申し込みを行うものとする。
- 2 入会は、理事会において別に定める基準により、理事会においてその可否を決定し、これをそのものに通知する。
- (会費等)
- 第7条 会員は、当社の目的を達成するため、それに必要な経費を支払う義務を負う。

2 社員は、社員総会において別に定める会費を納入しなければならない。

(任意退会)
第8条 会員は、理事会において別に定める脱会届を提出することにより、任意にいつでも退会することができる。

(除名)

(役員の解任)

第23条 役員は、社員総会の決議によって解任することができる。ただし、監事を解任する場合は、総社員の半数以上であって、総社員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

(報酬等)

第24条 役員の報酬等は、社員総会の決議をもって定める。

第6章 理事会

(構成)

第25条 当社に理事会を置く。

2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(権限)

第26条 理事会は、次の職務を行う。

- (1) 当社の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長、副理事長、専務理事及び常務理事の選定及び解職

(開催)

第27条 理事会は、通常理事会と臨時理事会の2種とする。なお、理事会は、理事総数の過半数の出席がなければ開催することができない。

- 2 通常理事会は、毎年2回開催する。
- 3 臨時理事会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事長以外の理事から、会議の目的である事項及び召集の理由を示して召集の請求があったとき。

(招集)

第28条 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

(決議)

第29条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、一般法人法第96条の要件を満たしたときは、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第30条 理事会の議事については、法令で定めるところにより議事録を作成する。

2 出席した理事及び監事は、前項の議事録に署名又は記名押印する。

第7章 資産及び会計

(事業年度)

第31条 当社の事業年度は、毎年4月1日から（翌年）3月31日までの年1期とする。

(事業計画及び収支予算)

第32条 当社の事業計画及び収支予算については、毎事業年度開始日の前日までに理事長が作成し、理事会の決議を経て社員総会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も同様とする。

2 前項の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないと

第9条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、社員総会の決議によって当該会員を除名することができる。

- (1) この定款その他の規則に違反したとき。
- (2) 法人の名誉を傷つけ又は目的に反する行為をしたとき。
- (3) その他除名すべき正当な事由があるとき。
- (会員の資格喪失)
- 第10条 第8条、第9条の場合のほか、会員は、次のいずれかに該当する場合には、その資格を喪失する。
- (1) 成年被後見人又は被保佐人になったとき。
- (2) 当該会員が死亡又は解散若しくは破産したとき。
- (3) 第7条の支払義務を1年以上履行しなかったとき。
- (4) 総社員の3分の2以上の同意があったとき。
- (社員名簿)
- 第11条 当社は、社員の氏名又は名称及び住所を記載した社員名簿を作成する。

第4章 社員総会

(社員総会)

第12条 当社の社員総会は、正会員をもって構成する。

2 定時社員総会及び臨時社員総会とし定時社員総会は、毎事業年度の終了後3か月以内に開催し、臨時社員総会は、必要に応じ開催する。

(招集)
第13条 社員総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

2 総社員の議決権の5分の1以上の議決権を有する社員は、理事長に対し、社員総会の目的である事項及び招集の理由を示して、社員総会の招集を請求することができる。

3 理事長は、前項の規定による請求があったときは、4週間以内に社員総会を招集しなければならない。

4 社員総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって開催日の1週間前までに各社員に対して通知しなければならない。

(決議の方法)

第14条 社員総会の決議は、法令に別段の定めがある場合を除き、総社員の議決権の過半数を有する社員が出席し、出席社員の議決権の過半数をもってこれを行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総社員の議決権3分の2以上に当たる多数をもって行う。
- (1) 社員及び会員の除名
- (2) 監事の解任
- (3) 定款の変更
- (4) 解散
- (5) その他法令で定められた事項
- 3 やむを得ない理由のため、社員総会に出席することができない社員は、あらかじめ通知された事項について、書面をもって決議し、又は他の社員を代理人として決議を委任することができる。

(議決権)

きは、理事長は、社員総会の決議に基づき、予算成立の日まで前年度の予算に準じ収入を得又は支出することができる。

3 前項の収入支出は、新たに成立した予算の収入支出とみなす。

(事業報告及び決算)

第33条 当社の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受け、かつ、第1号、第3号及び第4号の書類については、理事会の承認を経て、定時社員総会に報告しなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 損益計算書
- (5) 貸借対照表及び損益計算書の附属明細書
- 2 前項第3号及び第4号の書類については、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第48条に定める要件に該当しない場合には、定時社員総会への報告に代えて、定時社員総会の承認を受けなければならない。
- 3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置くことに、定款及び社員名簿を主たる事務所に備え置くものとする。
- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事の名簿
- (剰余金)
- 第34条 当社は、剰余金の分配を行なうことができない。

第8章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第35条 この定款は、社員総会の決議で変更することができる。

(解散)

第36条 当社は、社員総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第37条 当社が清算する場合において有する残余財産は、社員総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第9章 公告の方法

(公告の方法)

第38条 当社の公告は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

第10章 事務局

(設置等)

第39条 当法人の事務を処理するため、事務局を設置する。

- 2 事務局には、事務局長及び所要の職員を置く。
- 3 事務局長及び重要な職員は、理事長が理事会の承認を得て任免する。
- 4 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、理事長が理事会の決議により別に定める。

第15条 各社員は、各1個の議決権を有する。

(議長)

第16条 社員総会の議長は、理事長がこれに当たる。理事長に事故があるときは、当該社員総会において議長を選出する。

(議事録)

第17条 社員総会の議事については、法令の定めるところにより議事録を作成し、社員総会の日から10年間主たる事務所に備え置く。

第5章 役員

(役員の設置)

第18条 当社に、次の役員を置く。

- 理事 3名以上6名以内
- 監事 2名以内
- 2 理事のうち、1名を理事長とする。
- 3 理事のうち、副理事長及び専務理事・常務理事をそれぞれ1名置くことができる。
- 4 当社の理事長を法人法上の代表理事とする。

(役員の選任)

第19条 理事及び監事は、社員総会の決議によって選任する。

2 理事長、副理事長、専務理事及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から定める。

3 監事はこの法人又はその子法人の理事又は使用人を兼ねることができない。監事についても、同様とする。

4 理事のうち、理事のいずれかの1名とその配偶者又は3親等内の親族その他特別の関係にある者の合計数は、理事総数の3分の1を超えてはならない。監事についても、同様とする。

(理事の職務権限)
第20条 理事長は、当社を代表し、その業務を執行する。

2 副理事長は理事長を補佐し、専務理事は当社の業務を執行する。

3 常務理事は、当社の業務を分担執行する。

4 理事長、副理事長、専務理事及び常務理事は、毎事業年度毎に4か月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務権限)

第21条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、当社の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員の任期)

第22条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 監事の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとし、再任を妨げない。

3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

4 役員は、辞任又は任期の満了後において、定員を欠くに至った場合には、新たに選任された者が就任するまでは、その職務を行う権利義務を有する。

第11章 情報公開及び個人情報の保護

(情報公開)

第40条 当社は、公正で開かれた活動を推進するため、その活動状況、運営内容、財務資料等を積極的に公開するものとする。

2 情報公開に関する必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

(個人情報の保護)
第41条 当社は、業務上知り得た個人情報の保護に万全を期するものとする。

2 個人情報の保護に関する必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

第12章 補則

(委任)

第42条 この定款に定めるもののほか、この法人の運営に関する必要な事項は、理事会の議決により、理事長が別に定める。

第13章 附則

(最初の事業年度)

第43条 当社の最初の事業年度は、当社団成立の日から平成22年3月31日までとする。

(設立時社員の氏名又は名称及び住所)

第44条 設立時社員の氏名又は名称及び住所は、次のとおりである。

設立時社員

設立時社員

略

(法令の準拠)

第45条 本定款に定めのない事項は、すべて一般法人法その他の法令に従う。

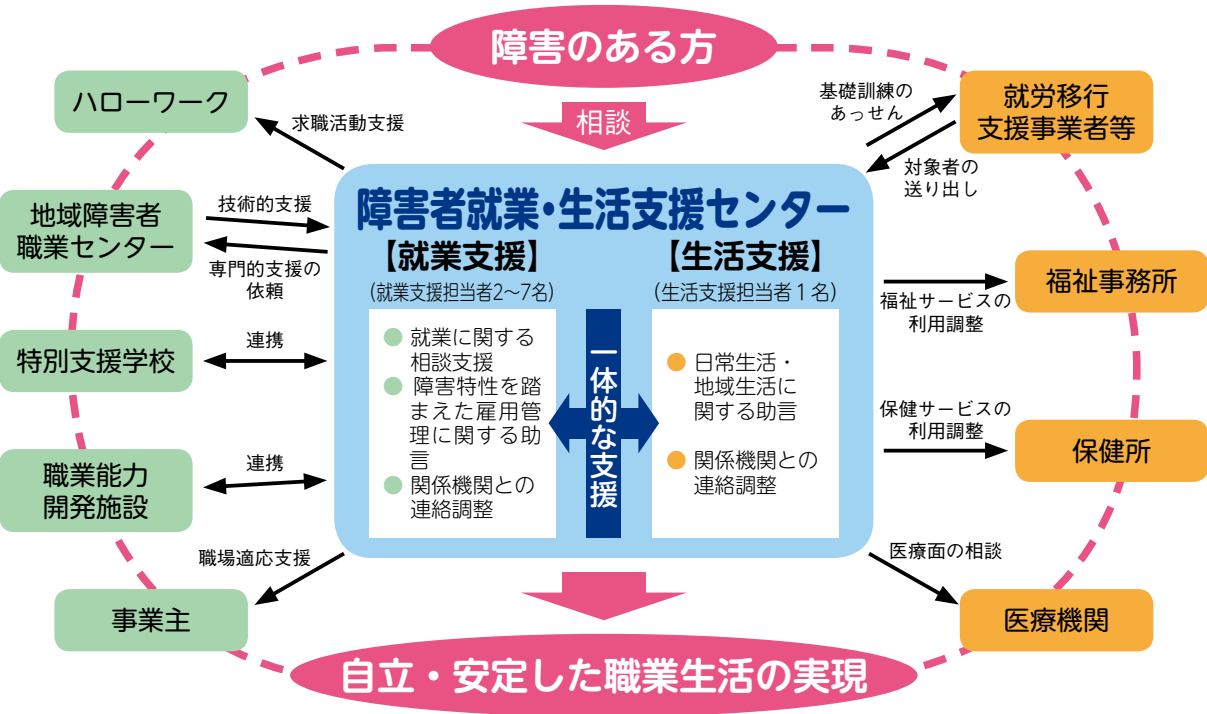
以上、一般社団法人備北地域生活支援協会を設立するため、この定款を作成し、設立時社員が次に記名押印する。なお、この定款に規定のない事項は、すべて法人法その他の法令によるものとする。

| | | |
|------------|-------|-------|
| 平成22年2月17日 | 設立時社員 | 熊原 保 |
| | 同 | 谷口 光治 |
| | 同 | 松本 憲睦 |

障害者就業・生活支援センターとは

「障害者就業・生活支援センター」とは、就職を希望されている障害のある方や在職中の障害のある方が抱える課題に応じて、身近な地域において、雇用、保健福祉、教育等の関係機関の連携拠点として、就業面及び生活面における一体的な相談支援を実施します。名称が長いので、「ナカポツ」や「ナカポツセンター」と呼ばれることもあります。

令和2年5月末で、全国に335センター、県内には8センターがあり、それぞれのエリアで活動しています。



左から高井英仁／横原千洋／澤井由紀／森末博雄／上田さつき

編集後記

今回の「ナカポツだより」で目に付くのはマスク姿の写真だと思います。

三密（密閉・密集・密接）を避け、手洗い・うがいの励行とマスクの着用という今のご時世を反映したものとなりました。

数年先または数十年先にこの特集号を目にすることがあれば「あの時は新型コロナで大変だったなあ…」と思いきえることができるのではないのでしょうか。

良し悪しは別にして、記念すべき特集号となりました。

編集・発行／一般社団法人 備北地域生活支援協会 備北障害者就業・生活支援センター

法人部門／〒727-0007 庄原市宮内町1157

事業部門／〒728-0013 三次市十日市東3丁目14-1 三次市福祉保健センター内

TEL.0824-63-1896 FAX.0824-63-1897

メールアドレス info@bihokucenter.com ホームページ <http://care-net.biz/34/bihoku-c/>

一般社団法人 備北地域生活支援協会 役員名簿

(令和2年5月15日現在)

| No | 役職名 | 氏 名 | 事業所名 | 所在地 |
|----|------|-------|----------------------|----------------|
| 1 | 理事長 | 熊原 保 | 障害者多機能型事業所 里山福業 | 庄原市永末町5151-1 |
| 2 | 専務理事 | 森末 博雄 | 備北障害者就業・生活支援センター | 三次市十日市東3丁目14-1 |
| 3 | 理事 | 酒井 主典 | 障害児入所施設 庄原さくら学園 | 庄原市三日市町5017-6 |
| 4 | 理事 | 安永 統 | 三次市障害者支援センター | 三次市十日市東3丁目14-1 |
| 5 | 理事 | 藤原 真 | 障がい者支援施設ニューライフ君田 | 三次市君田町東入君357-1 |
| 6 | 理事 | 藤原 俊雄 | 就労継続支援B型事業所 東寿園福祉作業所 | 庄原市東城町川西947-2 |
| 7 | 監事 | 若井 久子 | 訪問介護事業所 ユーシャイン | 庄原市総領町中領家476 |
| 8 | 監事 | 宗兼 安子 | 障害福祉サービス事業所かわせみの家 | 庄原市高町1246 |
| 9 | 社員 | 森重 利夫 | 障害者多機能型事業所 ゆうしゃいん三次 | 三次市畠敷町238 |
| 10 | 社員 | 田邊 弘 | 障害者支援施設 ともしきの里 | 庄原市総領町稲草77 |
| 11 | 社員 | 藤川 耕作 | 就労継続支援B型事業所 コージーガーデン | 三次市太田幸町10266-4 |
| 12 | 社員 | 梶川 順司 | 障害者多機能型事業所 青空 | 庄原市水越町808-2 |
| 13 | 社員 | 水本 富明 | 障がい者社会就労センター君田 | 三次市君田町東入君238-1 |
| 14 | 社員 | 江波 弘晋 | 障がい者社会就労センター三次 | 三次市十日市東5丁目7-35 |
| 15 | 社員 | 名越 千春 | 相談支援事業者 ゆうき相談所 | 庄原市総領町稲草77 |
| 16 | 社員 | 伊藤 昌代 | 障害者多機能型事業所 みとう温泉 | 庄原市宮内町美湯6353-2 |
| 17 | 社員 | 金藤 久滋 | 障害者支援施設 庄原もみじ園 | 庄原市三日市町甲17-9 |
| 18 | 社員 | 新田 衆治 | 相談支援事業者 ゆうしゃいん | 三次市太田幸町10388-7 |



一般社団法人 備北地域生活支援協会
備北障害者就業・生活支援センター